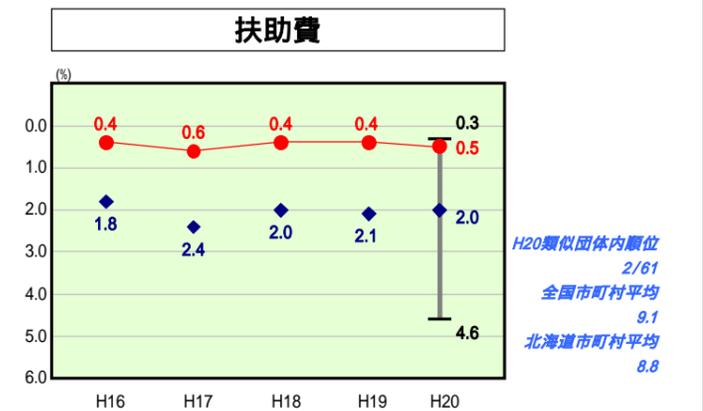
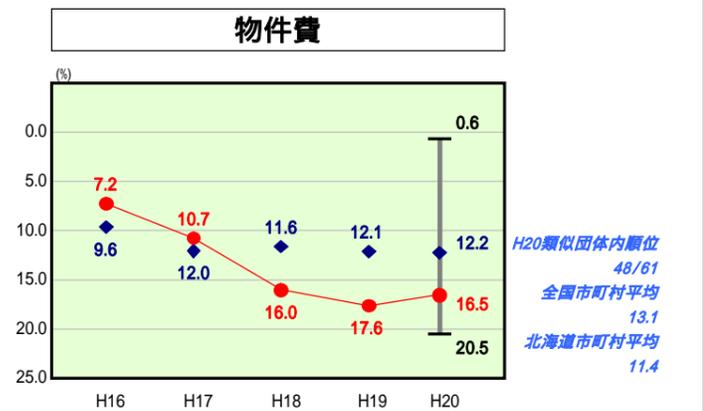
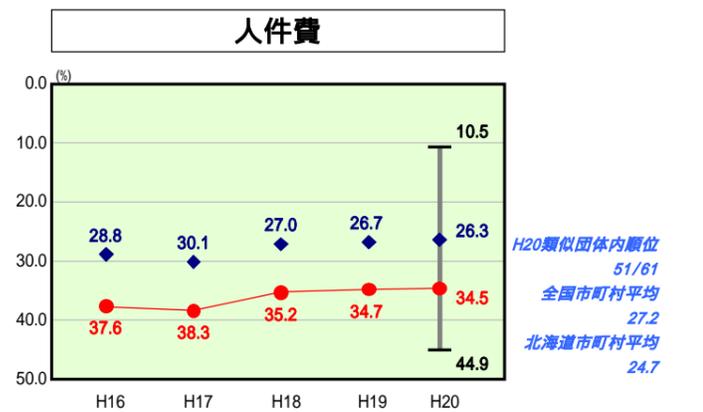
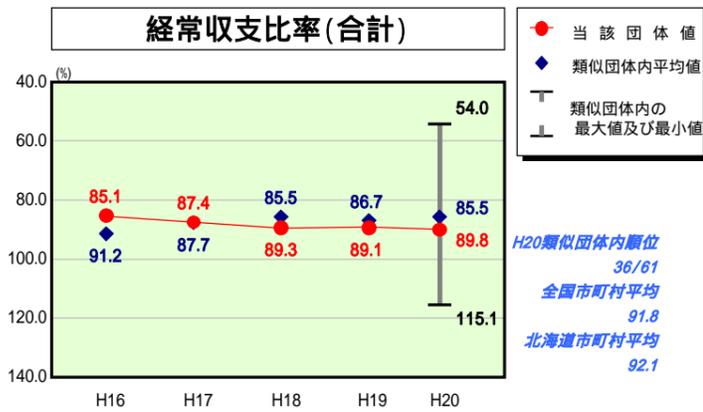
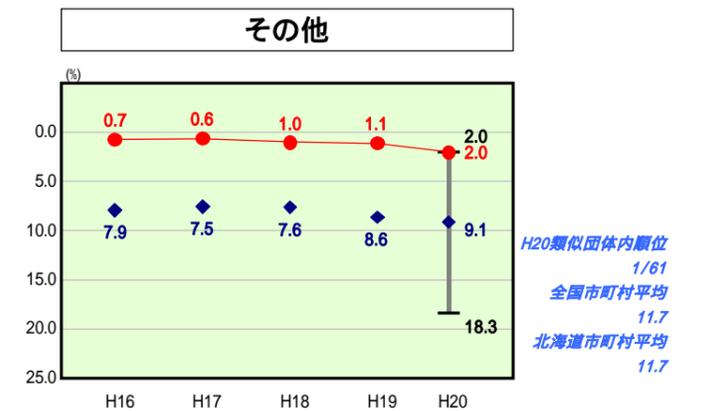
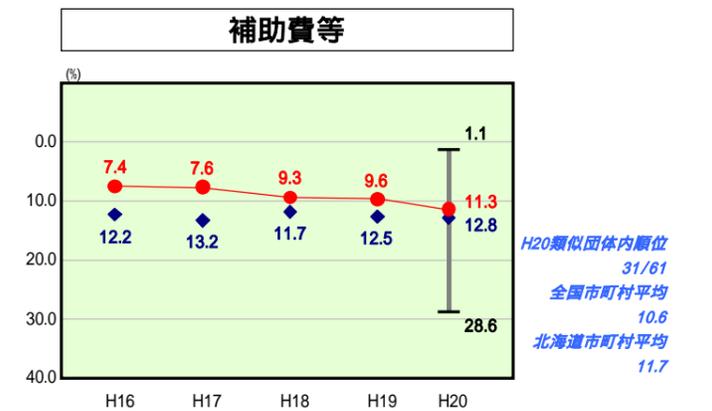
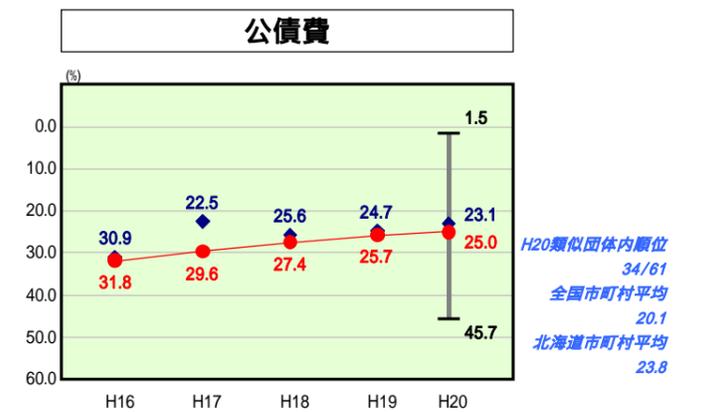
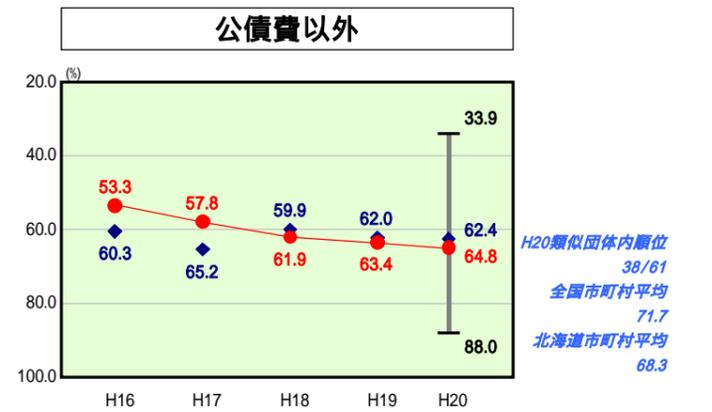
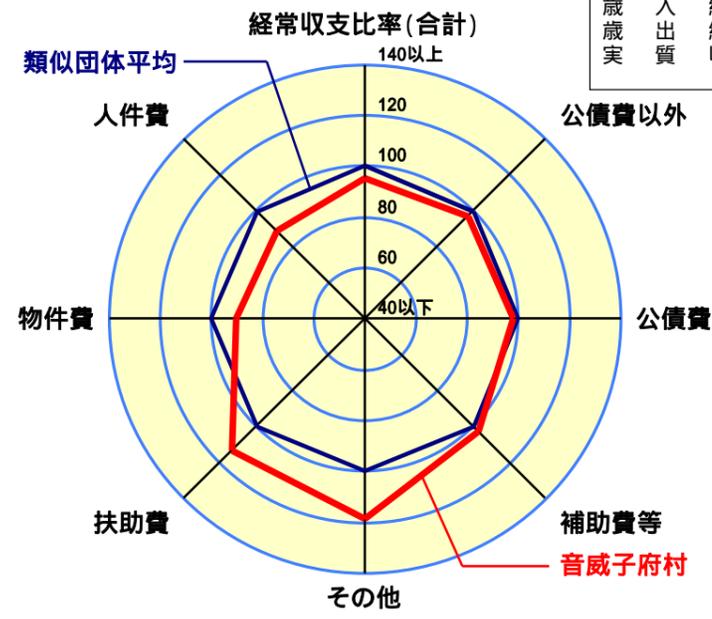


# 歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

## 経常収支比率の分析



人口	879人(H21.3.31現在)
面積	275.64 km <sup>2</sup>
標準財政規模	1,377,929千円
歳入総額	1,905,370千円
歳出総額	1,678,806千円
実質収支	89,407千円



- 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

**分析欄**

**人件費**～平成20年度は前年より0.2ポイント減の34.5%となっているが、類似団体平均と比べ高い水準にある。これは、公立高等学校を設置しているために職員数が類似団体と比較して多いことが主な原因である。ただし『自律プラン』による退職者不補充により、今回のポイント減となったと思われる。

**物件費**～総体として、4,100万円ほど減額となった。前年に比べ臨時的経費が減ったことによるが、類似団体平均を上回っており、今後も経常経費も歳出削減をしながら、物件費の抑制に努めていく。

**扶助費**～本年度も類似団体平均を大幅に下回っているものの0.1ポイント上昇した。高齢化が進んでいることから、今後も上昇することが予想されるが、現状を大きく上回らないよう適正な支出を行っていく。

**公債費**～元利償還金のピークは過ぎてはいるが、平成11年度から平成12年度にかけて主に整備した診療所建設、上下水道整備にかかる部分が償還金の30%弱を占めている。依然として自主財源の乏しい状況で、新たな大きな事業も控えざるを得ないため、公債費の割合は今後も減少していくと思われる。

**補助費等**～類似団体平均をやや下回っているが、前年度に比べ1.7ポイント上昇している。これは、主に定額給付金(事務)があった事によるものである。今後においても、補助金の見直しなどを行いながら歳出削減に努めていく。

**その他**～平成20年度においては、類似団体中1番目の数値となっているが、前年度より数字が微増となっている。今後は、公共施設などの老朽化により維持補修費の増加が見込まれるが、必要最小限にとどめるなど、現状より大幅に上昇しないよう努める。

**普通建設事業費**～前年度に比べ微減しており、人口1人当たり決算額も類似団体平均を若干下回っている。今後においては、大きな事業も予定していないことから、現状の数字から大きな変化は無いものと思われる。